

20170312 「ナルドの香油」

目標：女が高価なナルドの香油をイエス様に注いだことを知り、イエスがこのささげ物を喜んで、十字架に向けた備えに加えて下さったことを知る。

聖書箇所：マルコ14：1-9 時間：10分

暗誦聖句：「この女はできる限りのことをしたのだ。すなわち、わたしのからだに油を注いで、あらかじめ葬りの用意をしてくれたのである」（マルコによる福音書14：8）

道具：ホワイトボード、ペン

対象者：小6×1 小5×1 小3×3 小2×2 未就園児×4

留意点：ユダの記事が当該箇所に入っていたが、香油の記事に集中するために除外する。また、十字架を前にしている緊迫感から、1-2節は除外しない。

段階	時間	教師から	子供に予想される反応	備考
課題確認	2分	香油というのを知っていますか。	・知らない	おそらく知らないと思われる。いい香りのする油である。知っている子がいたら、その子に説明させる。聞いたことがあるか聞いても良い。既知だととたんに集中力を欠く場合があるが、当教会の場合は子供たちの食いつきが良くなると思われる。
課題探究	6分	イエス様が十字架につく直前、高価な香油をイエス様に注いだ女がおりました。	・知らない	知っている子がいるなら、値段が300デナリであることと、ほぼ年収分の金額であることを引き出したい。難しいければ、教師の側で補足する。
		ナルドの香油というのですが、どれくらい高価か、知っていますか。	・知らない ・知っている	情景が思い浮かぶように、いろいろ想像を促しながら話していく。
		イエス様がベタニヤというエルサレムにほど近い村の、シモンという人の家に滞在していたときのことです。一人の女が、イエス様の頭にナルドの香油を注ぎかけたのです。	・わからない ・いい香りがいっぱいになった。	壺自体はあまり大きくない。茶筒をイメージさせるといいだろう。 ・香油の意味を理解していれば答えられる問い。答えられなければ、ナルドの香油の意味をもう一度ここでおさらいする。
		部屋全体は、どうなったと思いますか。	・わからない ・もいい香りがいっぱいになった。	理由まで聞いていきたい。売れば貧しい人を助けられるし、しかもそれが主イエスの御心にかなうと、今までにも何度も学んできているからである。但し結論は出さず、考えさせる時としたい。
まとめ	2分	油を注ぐという行いは、その人に感謝を表すおこないとしてみんなに知られていました。	・もったいない。 ・もったいないとは思わない。	6-8節を読む。
		ところが、それを見て、もったいないといった人がいました。皆さんはどう思いますか。		いつもできることと今しかできないことを見分けることは大切である。
		イエス様の言葉はこうでした。今しかできないことを彼女はしているのだと主イエスは言われました。		十字架の時が近いことを思い起こさせると印象深くなる。主のみわざを飾る行いとして主は喜ばれたのである。
		女は考えもしなかったことでしょうか、これは私の葬りの準備なのだと、主イエスは言われました。		188号のテーマからの反映。
		9節で、主はこの女がした行いを、福音が述べ伝えられるどこでも、このことが併せて記念として語られると言われました。私たちも、主が喜ばれることを、その時々になしていきたいものです。		
		暗誦聖句		